

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(津商業高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「全力津商」の精神のもと、商業の見方や考え方を重視した学校教育を通して「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育み、地域社会に貢献できる人材を輩出する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・自他を尊重するとともに、規範意識と倫理観を大切にする人間性豊かな生徒 ・自らの可能性に挑戦し、「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につけ、新たな課題の発見と解決に積極的に取り組む生徒
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	・法令を遵守するとともに、授業力等の資質向上に向け、自己研鑽に励む教職員 ・目指す学校像、育みたい生徒像の実現に向け、情報共有と意思疎通を進めつつ互いに協力し、創意工夫を図る教職員集団

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 部活動を含め充実した高校生活を送ることを通して、学ぶ喜びを実感するとともに、自らの希望進路を実現することを期待している。 <保護者> 子どもが安全・安心な学校生活を送るとともに、学校生活全体を通じた人間力の育成及び希望進路の実現を期待している。 <地域> 学校の取組により、地域の活性化に資する人材を育成するとともに、地域の教育力を学校が活用し、社会に貢献する意欲や態度をとともに育成することを期待している。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加 <中学校> 卒業生の様子、入試情報などの共有 <地域企業・事業所> 地域産業の担い手としての人材の育成	<家庭> 本校教育活動への理解と連携協力 <中学校> 基礎学力定着の促進と個々の生徒に対して効果的な指導を進めるための情報共有 <地域企業・事業所> 生徒の生きた学習の場(実学)の確保に向けての連携協力
(3)前年度の学校関係者評価など	・「自己肯定感」や「付けたい力」等の把握に熱心に取り組んでもらっている。今後も継続して生徒の変容把握に努め、生徒支援に活用してもらいたい。 ・自分が学んだことをまとめ、分かりやすく伝える力は高くなっていると評価できる。産業界や地域社会と関わる学習活動の機会を通して、課題の探究やプレゼンテーション力向上に継続して取り組んでもらいたい。 ・担任が一人で抱え込むのではなく、外部人材も含めチームで対応していることは非常に良い事である。生徒にも困ったときには周りに助けを求める「受援力」が必要であることを教えていただきたい。 ・一人ひとりの個性を尊重し、誰一人取り残さず卒業させてほしい。 ・難しい点も多々あるのは理解できるが、あきらめずに働き方改革を進めてもらいたい。	

(4)現状と課題	教育活動	・資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。また、進学希望者の割合が多く、就職と進学の両面の支援充実に向け、計画的・系統的なキャリア教育を一層推進する必要がある。 ・新学習指導要領の実現に向け、「主体的で・対話的で・深い学び」の視点での授業内容の改善や3観点での評価方法等について実践や研究を重ねてきた。教科の枠を超えて成果と課題を共有し、一層の充実改善に努めていく必要がある。 ・生徒の自主・自立を一層促すため、生徒が主体的に学校生活や規則・マナーについて考える機会を増やしていく必要がある。 ・文武両道の理念のもと、ICT 機器や一人一台端末を有効に活用した授業実践や学習方法の研究を進め、より一層生徒や保護者の期待に応えていく必要がある。
	学校運営等	・独立商業高校の特色ある教育活動として、地元企業や商工会議所等との連携を図り、教育活動の充実改善に取り組んできた。今後も、2学科の特色ある教育活動の充実を一層図るとともに、その魅力を分かりやすく地域等に発信していく必要がある。 ・働き方改革に関する取組については、校内の諸活動のスクラップアンドビルド、組織と業務の精査、部活動指導等教員の意識改革も含めて、今後も継続して取り組み、中長期的な視点に立って改善していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・本校が定める付けたい力の育成に向け、学習活動、学校行事、部活動、進路指導、生徒指導人権教育等の学校教育の全ての機会を通して、生徒が主体的に考え、自ら気づいた課題の解決や探究的な活動の支援に努め、その変容を生徒と共通認識し、生徒と教職員が共に成長できる学校教育の実現に努める。 ・ICT や学習端末を効果的に活用する等、基礎学力の充実に取り組むとともに、商業の専門的知識や技術の習得、産業界や地域等と連携し専門性を活かした地域課題等の解決に向けたビジネスの視点を重視した探究活動など実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組を通して、地域社会の発展に貢献する人材を輩出する商業高校を目指す。
学校運営等	・本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を、中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、商業高校・各学科の存在価値について広く理解を得る。特に、商業教育を通して産業界や地域等と連携し専門性を活かした地域課題等の解決に向けたビジネスの視点を重視した探究活動など、実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組を分かりやすく発信する事に努める。 ・保護者や地域社会からの信頼と協力を一層得るため、全教職員の授業公開や評価手法の研究等を通しての授業改善、コンプライアンス研修等を通しての信頼される学校づくり、生徒の主体性を引き出す適切な生徒支援など、教職員の更なる意識改革と資質向上を目指す。 ・学級減に関連した教職員数の減少に対応した働き方改革に向けて、目的の明確化および共有を進め、組織的な業務の見直し、ICTの効果的な活用などを進めることで上限時間縮減等につなげ、働きやすい職場環境づくりを推進する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・「商業」や「情報」の学習に興味・関心と意欲があり、資格取得にも積極的に取り組める生徒 ・スポーツ活動や文化活動または生徒会活動等に意欲を持って取り組む姿勢を有する生徒
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)幅広い学力層の生徒に応じた分かりやすい授業づくりの推進 ICT等を活用して個別最適な学びと協働的で深い学びを推進し、生徒が主体的に探究する授業づくりに取り組む。 【活動指標】 ・DX人材育成に係る授業実践研修 2回 【成果指標】学校生活満足度調査(生徒) ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 85%以上(R5:83% R4:79%) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 80%以上(R5:75% R4:72%)) (2)産業界や地域等と連携し専門性を活かした地域課題等の解決に向けたビジネスの視点を重視した探究活動など、実社会との繋がりの中で主体性や協働性を育む取組等を通して「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。 【活動指標】 ・外部講師招聘や地元企業・行政等と連携した学習の発信(15回以上) 【成果指標】付きたい力に関するアンケート(生徒) ・「知識・技術」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が高まったと思う生徒の割合 80%以上(R5:前に踏み出す力 90%/考え抜く力 84%/チームで働く力:94%)	(1)一人一台端末を活用した授業を拡充し、主体的・協働的に学ぶ授業づくりに取り組んだ。 ・教員対象GIGAスクールサポーターミニ講座 5回 ・DX人材育成に係る授業研修 2回(ドローン、AI) ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 84% ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 78% (2)ビジネス探究プログラムを活用した探究学習や地域と連携した商品開発等により、つけたい力の育成に取り組んだ。 ・外部講師招聘・地域と連携した学習の発信(地元新聞等5回) ・つけたい力が高まったと思う生徒の割合 91%(前に踏み出す力87%/考え抜く力 88%/チームで働く力 94%)	◎
学校全体で取り組むキャリア教育の充実	(1)進路指導の充実 望ましい進路選択に向け、進路ガイダンス等の充実とインターンシップの充実を図る。また、教科・各分掌・各学年が協力し、全ての教育活動を通してキャリア発達の促進に関わり、その成果と課題を共有する。 【活動指標】 ・進路ガイダンスの充実(1年3回、2年4回、3年5回) ・インターンシップの実施(2年生) 【成果指標】振り返り調査(生徒) ・自らの進路について考える事ができたと思う生徒の割合 85%以上(R5:85%) (2)生徒指導の充実 社会人として必要な規範意識やマナーについて、3年間を見通した指導を行い、自主・自立を促すことに努める。また、生徒の主体性を引き出す生徒会活動に努める。	(1)関係機関と連携した進路ガイダンスやインターンシップの充実を図った。 ・進路ガイダンスの充実(1年3回、2年4回、3年5回) ・インターンシップの実施(2年生 7~8月) ・自らの進路について考える事ができたと思う生徒の割合 90% (2)身だしなみなどのルールやマナーを守るための働きかけに加え、生徒がルールづくりに関わる機会をつくった。 ・自己肯定感を涵養する機	

	【活動指標】 ・自己肯定感を涵養する取り組み(各学年、生徒会) 【成果指標】自尊感情に関するアンケート(生徒) ・自分の判断や行動を信じていることができると思う生徒の割合 75%以上 (R5:74%)	会として、各学年で保健部講話を行った。 ・自分の判断や行動を信じていることができると思う生徒の割合 83%	
安心・安全な学校づくり	(1)人権感覚あふれる心を育む教育の充実 人権教育推進計画にそって教科指導と校内の取組を連携させた教育活動を推進し、人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。 【活動指標】 ・人権フィールドワークとその発表会(1年生) 【成果指標】 ・仲間と協力して人権課題に取り組めたと回答する生徒の割合 95%以上 (R5:98%) (2)命を大切にすることを育む教育の充実 生徒が自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にする態度を育成する。また、学校医・SC・SSW 等と連絡を密にし、生徒の発達段階に応じたきめ細かな支援に努める。 【活動指標】 ・個人面談(3回) ・SC・SSW との協議等(6回以上) 【成果指標】 ・自分の事を必要としてくれている人がいると思う生徒の割合 90%以上 (R5:86.7%) ・自分の個性を大切にしたいと思う生徒の割合 95%以上 (R5:95.5%) (3)危機管理意識の向上に向けた取組の推進 感染症予防対策の継続、熱中症対策、不審者対策、防災対策等、生徒自身が自助と共助の行動が取れるよう努める。また、施設・設備における危険リスクの削減・回避にも努める。 【活動指標】 ・保健だよりの発信(11回) ・防災訓練等(2回) 【成果指標】学校生活満足度調査(生徒) ・安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合 95%以上 (R5:96%)	(1)各学年で人権LHRに取り組むとともに、各教科で人権教育を実施した。 ・1年生は、11のテーマに分かれ、人権フィールドワークを実施した。 ・2年生は、沖縄修学旅行を見据え、津空襲の語り部による講演会を実施した。 ・仲間と協力して人権課題に取り組めたと回答する生徒の割合 97% (2)いじめ防止の啓発活動に生徒と教員が取り組むとともに、SCや相談員等による教育相談を充実した。 ・個人面談(3回) ・SC・SSW との協議等(10回) ・自分の事を必要としてくれている人がいると思う生徒の割合 85% ・自分の個性を大切にしたいと思う生徒の割合 96% (3)熱中症対策、感染予防対策等に努めた。 ・保健だよりの発信(11回) ・防災訓練(12月) ・防災備蓄品の確認(8月) ・安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合 94%	◎
改善課題			
生徒指導や進路指導について学校としてどのような考えで進めるのか、統一した方針や共通認識により、全職員で生徒たちと関わっていく必要がある。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の 取り組み	(1)計画的な資質向上への取組 ICT活用、学習評価、保健、生徒指導、人権教育等に関する研修会を実施し、資質向上に取り組む。 【活動指標】 ・校内研修会の実施（各1回以上） ・教員相互の授業研究（2回以上） 【成果指標】学校生活満足度調査(生徒) ・授業に満足している生徒の割合 80%以上 (2)信頼される教職員集団への取組 ヒヤリハット事例等の共有や教職員一人ひとりが教育活動を自己点検し、コンプライアンス意識の向上に努める。 【活動指標】 ・信頼向上委員会の開催(5回) ・コンプライアンス研修(2回) 【成果指標】コンプライアンス意識調査(2回) ・コンプライアンスの向上に努める教職員の割合 100% (R5:100%)	(1)ネットによる研修の積極的な活用により、各自が資質向上に取り組んだ。 ・校内研修会の実施（各1回以上） ・教員相互の授業研究（2回以上） ・授業に満足している生徒の割合 80% (2)セルフチェックや対面研修により、コンプライアンス意識の向上に努めた。 ・委員会の開催 5回 ・コンプライアンス研修 2回 ・コンプライアンスの向上に努める教職員の割合 100%	
情報提供による信頼の構築	(1)授業、学校行事等の公開 開かれた学校づくりの一環として、生徒の様子や商業高校の学習内容について保護者や地域に理解を深めてもらう。 【活動指標】 ・公開授業等の実施(3回以上) 【成果指標】 ・行事参加者アンケートでの満足であると回答した生徒の割合 90%以上 (R5:95%) (2)教育活動の成果等を情報提供 商業に関する特色ある教育活動や部活動の成果等に関する情報をウェブページ、インスタグラム等を活用して積極的に発信する。 【活動指標】 ・web等での情報発信(100回以上) 【成果指標】保護者へのアンケート ・学校の様子を理解する保護者の割合 80%以上	(1)授業をはじめ、体育祭や文化祭の保護者への公開を行った。中学生や保護者を対象とした学校説明会についても実施した。 ・公開授業等の実施 3回 (6月、8月、10月) ・修学旅行アンケートで満足度 70%以上であると回答した生徒の割合 99% (2)部活動や販売実習などの特色ある教育活動について情報発信を行った。 ・インスタグラムを活用した情報発信(73回) ※3月1日現在 ・学校の様子を理解する保護者の割合 80%	
組織運営・働きやすい職場環境づくり	(1)働き方改革の推進 総勤務時間の縮減に向けて、時間外労働時間の削減に取り組む。 【活動指標】 ・設定した定時退校日に退校できた教職員の割合 90%以上 (R5:90%) ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% (R5:100%) ・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 90%以上 (R5:78%) ・学校閉校日の設定 3 日以上 (R5:4日) 【成果指標】 ・時間外在校時間が年 360 時間を超える教職員数	(1)総勤務時間縮減に向けて取り組んだ。 ・設定した定時退校日に退校できた教職員の割合 100% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 90% ・学校閉校日の設定 3 日 ・時間外在校時間が年	

	0人 (R5 11人) ・時間外在校時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 (R5 121人) ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 20時間以下 (R5 22.3時間) ・1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上 (2)円滑な組織運営に向けた対応 組織運営上の諸課題の解決に向けて、学校への期待・職場の規模・負荷分散等の視点で検証し、組織や業務内容の改善を進める。 【活動指標】 ・学校行事や部活動、会議や出張等の精選 【成果指標】 ・働きやすい職場環境だと感じる教職員の割合 100%	360時間を超える教職員数 18人 ・時間外在校時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 58人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 26.2時間 ・1人当たりの年間休暇取得日数 16.9日 (2)年度末教職員アンケートを活用し、行事予定の調整等を積極的に行った。 ・働きやすい職場環境だと感じる教職員の割合 71%	◎
改善課題			
子どもたちや教員双方に無理のない目標設定がなされており、子どもたちの勉学に向かう姿勢が育まれているように感じるが、今後はクラス減や教員減に備えて業務量を減らしていくことが必要である。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・中学校の職場体験と違い、高校のインターンシップは進路と直結しているため、商工会議所にコーディネートしていただきながら、生徒自身が将来就く職業について具体的に考える体験となるよう取り組んでいく必要がある。 ・アンケートは8割5分を超えると得点の変化は難しくなってくるので、ある程度より高ければとした方がよい。一方で、アンケートで望ましくない方向に回答している生徒には、どうしてそういう回答になったのかを聞くとよい。 ・子どもたち同士がすごくまとまってお互いを応援したりできているので、ポソンとなる子に声をかけて引っ張ってくれる子もいると思うが、そのような支え合う力を子どもたち同士で育てていきたい。 ・若い子は指示待ちで言葉に出して言われないとやれないことがあるので、何をすべきか、主体的に考えることができるようになる取り組みを常々してもらうとよい。 ・保護者への情報発信について、ホームページを頻繁に更新するなど、スピード感をもって取り組んでいくことが求められている。
---------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・学校全体として今の時代に合った生徒指導の方法を具体的にどうしていくか、どういう方向性で進めていくのかを確認する必要がある。 ・校則(頭髪・服装等)に関しては、生徒や保護者の意見を反映させていくための取り組みを行う。
学校運営についての改善策	・組織づくりが重要であり、分掌間のコミュニケーションを活発にし、一部の人のだけに負担がかからないチームワークのよい職場にしていく。 ・前例踏襲の体制を改め、学校行事や業務内容などの見直しを行い、教員の負担を軽減していく。 ・今後のビジネス科・情報システム科の在り方を検討するとともに、PR活動に力を入れ、特色ある教育活動を積極的に情報発信していく。